

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日		三村 光		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 三友学園		昭和61年7月26日		池田 基熙		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		情報システム学科		平成 7(1995)年度	-	平成27(2015)年度	
学科の目的	日々進化するIT業界に必要な専門知識やプログラミングを基礎から学習。さらにチームで協力し、システムの開発やコンテストに参加することで応用力を伸ばす。問題を解決する力を身につけることで、即戦力として活躍できる人材を育成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	【取得可能な資格】 基本情報技術者試験 情報処理技術者能力認定試験 Java™プログラミング能力認定試験 Linux技術者認定試験 AWS認定クラウドプラクティショナー							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,702 単位時間	706 単位時間	1,573 単位時間	70 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
80 人	92 人		0 人		0 %	3 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 49 人							
	■就職希望者数(D) : 48 人							
	■就職者数(E) : 48 人							
	■地元就職者数(F) : 33 人							
	■就職率(E/D) : 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)							
	1 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)							
	98 %							
	■進学者数 : 0 人							
■その他								
アルバイト								
(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
【業界】IT業界 他								
【就職先】㈱日本テクノス、㈱システムエンタープライズ、㈱RELATION、㈱ウィルテック、㈱アテック、㈱テクノプロ テクノプロ・エンジニアリング社、東都システムズ㈱、スリープラス㈱、㈱リゾーム、㈱アウルホールディングス、㈱ビジネスコム、コベルコソフトサービス㈱、㈱アクシス、(株)ビーネックステクノロジーズ、㈱ユナイテッドサーブ、㈱カイトックホールディングス、㈱ソフィア、ユニバース情報システム㈱、エムアンドシーシステム㈱、㈱ジェイテック 他								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 受審年月： 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf							
当該学科のホームページURL	https://oic-ok.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数				1,702 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				70 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				390 単位時間			
	うち必修授業時数				460 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				70 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				237 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				70 単位時間			
	(B：単位数による算定)							
	総単位数				単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位			
	うち必修単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人			
	計				4 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
楠戸 國正	一般社団法人 システムエンジニアリング岡山 専務理事・事務局長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
若松 弘	株式会社日本テクノス執行役員 教育本部 本部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
川崎 勝	株式会社日本テクノス教育本部 技術推進部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
谷本 健	株式会社システムエンタープライズ 取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
妹尾 潤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報システム学科 学科長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年 8月28日(水) 15:30～17:30

第2回 令和7年 2月 5日(水) 15:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

クラウドインフラ専攻のカリキュラムを検討する際に、ネットワーク、セキュリティ、サーバ関連の内容だけでなく、プログラミング教育も平行して行った方がよい。システム運用エンジニアだとしても、プログラミング力は担当者として必要になる。また、会社として、システム運用エンジニアとして採用であっても、スポットとして開発に携わることもある。

⇒クラウドインフラ専攻のカリキュラム内容に、1年、2年ともに、プログラミング力を養うカリキュラムを検討し、取り入れるようにする。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT業界で即戦力となる技術者育成のため、ソフトウェア開発企業を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはソフトウェア開発についての仕事全般が体験でき、システムエンジニア、プログラマーとして活躍している方からシステム開発に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

キャリア実習に関しては、主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

システム運用実践に関しては、システム運用の分野において、最前線で活躍されている日本テクノス様よりシステム運用に必要な基礎知識からハンズオンの実践までを講師として直接指導していただいている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等
キャリア実習	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	オムロンフィールドエンジニアリング、株式会社プロビズモ、株式会社RELATION、株式会社ソフィア、株式会社テクノデジタル 全23社
システム運用実概論	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	システム運用と開発業務の役割を把握し、システム運用だけでなく、開発も含めたシステムライフサイクル全体を理解する。それにより、一歩先を見据えたシステムの基盤支えるエンジニアになるための土壌を身に付けることを目的とする。	株式会社日本テクノス
システム運用実践	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ITシステムの運用業務について、職種の概要から実業務、必要となるスキルを習得する。	株式会社日本テクノス
システム開発実践	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	システム開発の一連の工程を経験することで、開発の要点や独力で開発を進める技術力を身に着け、卒業研究につなげる。また、チームで開発を行うことでチームワークを身につけることを目標とする。	株式会社システムエンタープライズ

(別途、以下の資料を提出)	
* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等	
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と関係者に対して研修内容の共有を行う。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 実践的なプログラミング教育の考察 連携企業等	連携企業等: サーティファイ情報処理能力認定委員会
期間: 令和6年10月11日	対象: 情報系教員
内容: 実践プログラミング技術者試験の分析、および新リリース予定「問題集」の活用方法について	
研修名: 第2回 AIコミュニティ	連携企業等: サーティファイ
期間: 令和7年3月27日	対象: 情報系教員
内容: AIの発展とその社会的影響についての最新動向についての講演とディスカッション	
研修名: 「IT技術者のための自分アップグレードセミナー」	連携企業等: LPI Japan
期間: 令和6年7月29日	対象: 情報系教員
内容: エンジニアにとってのキャリアマップとワンランク上のエンジニアに成長するための手法を学ぶ	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「志セミナー」株式会社ミアーズ 代表取締役 前村美樹さん講演	連携企業等:	株式会社ミアーズ
期間:	令和6年6月13日 9:30-10:30	対象:	教務課職員
内容:	業界をリードする経営者を講師に迎え、自身の経験を踏まえながら、「変化する時代に生き抜く力を身に付ける方法」「自身の力でキャリアをデザインする生き方」について講演いただく。自分自身の人生や社会課題の解決について考える機会とし、一人ひとりのやる気と行動の原点につなげていく。		
研修名:	学生指導力を向上させるマネジメント研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和7年3月11日～12日	対象:	学科責任者
内容:	学校における強みを理解し、教職員が柱である授業運営やガイダンスに注力できる環境を構築し、学生指導力の向上を図る。		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	実践的なプログラミング教育の考察 連携企業等	連携企業等:	株式会社サーティファイ
期間:	令和7年9月	対象:	情報系教員
内容:	実践プログラミング技術者試験の分析、実事例を交えたプログラミング教育についての講話		
研修名:	第3回 AIコミュニティ	連携企業等:	株式会社サーティファイ
期間:	令和7年10月	対象:	情報系教員
内容:	AIの発展とその社会的影響についての最新動向についての講演とディスカッション		
研修名:	『AIの進化で変わる開発手法』	連携企業等:	LPI Japan
期間:	令和7年7月5日	対象:	情報系教員
内容:	生成AIのトレンドと、今後の技術者に必要となるノウハウやスキルを解説		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	組織を強くする人材育成	連携企業等:	株式会社東京カモガシラランド
期間:	令和7年5月7日	対象:	学科責任者
内容:	人材育成の重要性を再確認し、日頃のマネジメントに活用することにより、教職員全体の成長につなげていくとともに、学生指導にも効果的に活用する。		
研修名:	AI活用術	連携企業等:	ユースフル株式会社
期間:	令和7年10月予定	対象:	教員
内容:	ChatGPT等のAI技術を活用することによる授業準備効率の向上手法を学ぶ。		
研修名:	救命救急講習	連携企業等:	岡山市消防局
期間:	令和7年8月予定	対象:	全教職員
内容:	心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法など、基本的な応急処置を学ぶ		

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

入試を実施しても、ほぼ全員が入学する状況であると考えられる。こうした状況を踏まえ、今後どのような取り組みが必要であるかについてご意見をいただいた。

その中で、本校の強みの一つである「面倒見の良さ」は引き続き維持しつつ、アドミッションポリシーに掲げる「これまでより、これから」を意識し、入学後に学生自身の意思によって成長できるような支援を行っている。

具体的には、教職員が一丸となって、授業や個別面談、課外活動、キャリア支援など、あらゆる場面で学生に寄り添い、声をかけ、適切な支援や挑戦の機会を提供するなど、積極的かつ継続的に関わっている。

あわせて、アクティブラーニングやプロジェクト型学習など指導方法の工夫を重ね、学生の主体的な学びを促すとともに、地域や企業、卒業生との連携を通じて、実社会とつながる学びの場を構築している。今後もこうした多面的な取り組みにより、学生一人ひとりの成長を着実に支えていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
畑 嘉昭	株式会社トスコ 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員(I T)
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員 (保育)
守井 照久	税理士法人 創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (会計)
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ビジネス)
山本 渉	医療法人 和香会 倉敷スイートホスピタル 事務局長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (医療)
豊田 東	バイオシステム株式会社 岡山国際ホテル 総支配人	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ホテル)
高橋 京恵	株式会社FIL DESIGN 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (デザイン)
北牧 涼輔	NAYUG合同会社 代表社員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ゲーム)
米谷 紀彦	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (公務員)
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (留学生)
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 DE事業部 製造ソリューション部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
藤田 直樹		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://oic-ok.ac.jp/about/info/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2)各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3)教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7)学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://oic-ok.ac.jp/about/info/>

公表時期: 毎年6月に更新

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネス実務ⅠA	社会常識・マナー・コミュニケーション能力を習得し、社会人としての基礎力と自分のキャリア形成について学ぶ。	1 前期	60	4	○			○		○		
2	○			コンピュータ概論	テクノロジー系の基礎となる情報の基礎理論やハードウェア、ソフトウェア等に関する分野の知識を網羅的に学ぶ。 基礎的な用語や考え方を身につけることを目的とする。	1 前期	78	4	○			○		○		
3	○			ネットワークセキュリティ	ネットワーク、情報セキュリティに関する分野の知識を網羅的に学ぶ。 基礎的な用語や考え方を身につけることを目的とする。	1 前期	46	3	○			○		○		
4	○			プログラミングⅠ	オブジェクト指向プログラミングの基本的概念を理解し、オブジェクト指向を用いたJava言語プログラミングができるようになることを目的とする。	1 前期	81	4		○		○		○		
5	○			アルゴリズム概論	基礎的なアルゴリズムの流れ、考え方を身につけることを目的とする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身につけ、別の記述形式として疑似言語も学び理解することを目的とする。	1 前期	64	4	○			○		○		
6	○			ビジネスアプリケーション演習	Windowsの操作に慣れていない学生、Excelを使用したことがない学生もいるため、Windows操作方法の確認、Excelでは操作方法の確認、各関数を使えるようにする。実際にパソコンを使用して、確実に処理が行われているか確認しながら、エクセル2級検定の合格レベルまで引き上げていく。	1 前期	32	2		○		○			○	
7	○			ペン字	美しい文字を書くことの大切さを理解し、その為の正しい姿勢・呼吸・ペンの持ち方を学ぶ。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本店面、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形を学ぶ。	1 前期	15	1		○		○			○	
8	○			キャリアデザイン基礎	社会人として必要なビジネスマナーや積極性を身に付ける。IT業界の知識を深め、IT業界で働いていくために必要な素養を身に付ける。	1 前期	21	1		○		○		○		
9	○			ビジネス実務ⅡA	社会常識やマナー、面接対策などを通じて実践力を養い、職業理解と将来設計に必要な基礎力を身につける。	1 後期	45	3	○			○		○		
10	○			プログラミングⅡ	文字列、日付操作、コレクション、例外について学び、基本的なAPIを活用したJavaプログラミング技術を修得し、Java2級の合格を目指すことを目的とする。	1 後期	31	2		○		○		○		

(工業専門課程 情報システム学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
11	○			情 報 リ テ ラ シー	サティファイの過去問題を中心に、一問一問理解を深め各分野の基礎力を高め応用力を付け、さらなる実力アップをはかることを目的とする。	1 後 期	24	1	○			○		○		
12	○			情報処理技術 者 I	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。	1 後 期	88	4	○			○		○		
13	○			データベース 概論	SQLによるデータベース操作を実習を交えながら学習し、基本的なデータベース構築・運用が出来るレベルの知識・技術の修得することを目的とする。	1 後 期	30	2		○		○			○	
14	○			プレゼンテー ション技法	PowerPoint2019を使用しプレゼンテーションの組み立て方を学び、実際の操作をプロジェクターを使用してプレゼンテーションを行うことを目的とする。	1 後 期	19	1		○		○		○		
15	○			インターン シップ実習	めざす業界・職種の企業等で、実際の業務の流れや仕事のやりがい等を体感する。実習を通して、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができるようになり、実習後、各自がしっかりとした職業意識をもって、主体的に学ぶことができることを目的とする。	1 後 期	70	2			○		○	○		○
16	○			実習事前・事 後指導	学内で事前指導を受け、実習の心構えや目標を学んだのちに、職場での就業体験を行う。事後指導での振り返りや成果発表によって、自己の職業適性や将来設計について考える機会とし、主体的な職業選択や高い職業意識の形成に繋げる。	1 後 期	30	2	○			○		○		
17		○		システム開発 I	基本設計書の作成、外部設計書の作成をもとにプログラミング前にどのような事を考える必要があるのかを理解し、今後のプログラミングに活かすことを目的とする。	1 後 期	50	3		○		○			○	
18		○		プログラミン グⅢ	プログラミングⅠの範囲に無かったメソッド、ライブラリの使用方法を学習し、より高度なJavaプログラミングができるようになり、実践的な処理とデータ構造の理解ができることを目的とする。	1 後 期	50	3		○		○			○	
19		○		HTML・CSS	HTML、CSS、JavaScriptを使って、Webサイトを作成し、複数ページに渡るWebサイトを個人の力で作れるようになることを目的とする。	1 後 期	38	2		○		○			○	
20		○		Linux I	Webサーバーとして構築・運用することを想定したネットワーク上で Linux を活用する出題範囲の問題を解けるように基礎から学習し、LinuC レベル1を理解することを目的とする。	1 後 期	45	3		○		○		○		

(工業専門課程 情報システム学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21		○		ネットワーク演習	HUBやルーターを用いた演習でローカルネットワークを構築し、実際のネットワークの基礎技術を習得し、仕組みと動作の概要を理解することを目的とする。	1後期	45	3		○		○		○		
22		○		システム運用概論	システム運用と開発業務の役割を把握し、システム運用だけでなく、開発も含めたシステムライフサイクル全体を理解する。それにより、一歩先を見据えたシステムの基盤を支えるエンジニアになるための土壌を身に付けることを目的とする。	1後期	32	2		○		○			○	○
23		○		プログラミング演習Ⅰ	プログラミング学習環境 TecC-FUL を活用し、多くの演習問題をプログラミングすることでプログラミング力の向上を期待する。また、サーティファイ Java™プログラミング能力認定試験2級が取得できるように力をつけることを目的とする。	1後期	16	1		○		○		○		
24	○			ビジネス実務ⅢA	社会常識・ビジネスマナー・コミュニケーション能力を1年次よりさらに深め、実践的な対応力を養うことを目的とした講義。	2前期	30	2	○			○		○		
25	○			情報処理技術者Ⅱ	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。	2前期	93	4	○			○		○		
26	○			キャリアデザイン応用	社会人として必要なコミュニケーション力や知識を、グループ制作実習や企業訪問を通じて身に付けることを目的とする。	2前期	30	2		○		○		○		
27		○		プログラミングⅣ	サーブレット・JSPの基本的な文法及び考え方を学習し、サーブレット・JSPを用いたプログラミングができるようになることを目的とする。	2前期	73	4		○		○			○	
28		○		Webアプリケーション演習	HTML、CSS、JavaScriptを活用したWebアプリケーションを様々な開発ツールを活用し、開発できるようになることを目的とする。	2前期	64	4		○		○		○		
29		○		システム開発Ⅱ	UMLを用いたシステム設計手法で、要求内容から、適切な情報を抽出し適切な手法で設計書を作成できることを目的とする。	2前期	61	4		○		○			○	
30		○		システム開発Ⅲ	仕様書の解析、コーディング、テストの流れを理解し、仕様書から適切な情報を読み取り、プログラミングを行うことができることを目的とする。	2前期	60	4		○		○			○	
31		○		システム開発実践	システム開発の一連の工程を経験することで、開発の要点や独力で開発を進める技術力を身に付け、卒業研究につなげる。また、チームで開発を行うことでチームワークを身につけることを目標とする。	2前期	60	4		○		○			○	○

(工業専門課程 情報システム学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
32	○			ビジネス実務 IVA	1年次の学びを基にマナー等の知識を深め、検定受験や就職活動を通じて実践力と社会人としての心構えを養う講義。	2 後 期	15	1	○			○		○		
33		○		LinuxⅡ	Linuxの基本的なコマンド操作およびサーバ構築ができる。 シェルスクリプトによるバッチ処理も学ぶ。	2 前 期	65	4		○		○		○		
34		○		プログラミング 演習Ⅱ	システムの運用・管理に必要な、処理の自動化をPythonとExcelを中心に学び、DX推進人材としての技術・知識の基礎を身に付ける。	2 前 期	62	4		○		○		○		
35		○		クラウド環境 構築演習	IT業界でもニーズの高いAWS (Amazon Web Services) のプラットフォームを活用したWebシステムの開発技術を習得する。	2 前 期	63	4		○		○			○	
36		○		サーバ・セ キュリティ	ネットワークやサーバーの運用・管理に必要な知識を身に付ける。 障害対策やセキュリティ面の知識・技術を身に付け、セキュリティ意識の高いエンジニアになる基礎を身に付ける。	2 前 期	67	4		○		○			○	
37		○		システム運用 実践	ITシステムの運用業務について職種の概要から実業務、必要となるスキル・基礎知識を取得する。	2 前 期	61	4		○		○			○	○
38	○			基本情報技術 者Ⅲ	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。	2 後 期	88	4	○			○		○		
39	○			卒業研究	クロスエデュケーションの課題に対してシステム開発の一連の工程を経験することで、開発の要点や独力で開発を進める技術力を身につけ、チーム開発を行うことでチームワークを身につける。また、課題解決を行うことで企業とのつながりを強く持つことを目的とする。	2 後 期	237	4		○		○		○		○
40		○		ペン字上級	日常生活に役立つ行書（美しいつづけ字）を学ぶ。 行書のルールを覚え、一筆箋、封筒、年賀状、のし袋（筆ペン）を書いてみる。	2 後 期	15	1		○		○			○	
41		○		ビジネス英語	グローバル社会が進む中、企業内の標準言語が英語になるなど、ビジネスにおいて英語を使う機会が増えている。ビジネスの場で、簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付けることを目的としている。	2 後 期	15	1	○			○			○	
42		○		エクセル上級	Excelのスキルををあらゆるビジネスシーンで活用できるように、基礎知識から応用まで幅広く学び、PCスキルを社会で活かせる人材育成を目的とする。	2 後 期	15	1		○		○		○		
43		○		医療事務	医療機関の役割、医療保険制度の仕組みを知り、簡単な医療費の計算方法を習得する。	2 後 期	15	1		○		○		○		

(工業専門課程 情報システム学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
44	○		RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う。	2後期	15	1		○		○	○			
45	○		情報リテラシー	業務で役立つWindowsの便利な機能や、社会に出てから必要となるセキュリティ知識やAIの活用方法などについて学ぶ。	2後期	15	1		○		○	○			
46	○		データマーケティング	データを根拠に考え、新しいアイデアを考案するための方策を学ぶ。Excelを活用した分析手法についても修得する。	2後期	15	1		○		○	○			
47	○		ファイナンスプランナー	身近なお金の知識やこれから必要になるお金の知識を学ぶ。投資など資産運用について基本的な知識を身につける。	2後期	15	1	○			○	○			
48	○		一般知能	数的推理・判断推理を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける。	2後期	15	1	○			○	○			
49	○		フラワーアレンジメント	フラワーデザインの基本的な知識を習得し、形や構成からテーマを表現する。	2後期	15	1		○		○			○	
50	○		ゲームプログラミング	ゲームプログラミングを通じて論理的思考法を身に付ける	2後期	15	1		○		○	○			
51	○		広告映像	会社の広報SNSなどに必要な写真の撮影、および動画制作を通して、情報や魅力をわかりやすく伝える力を身につける。	2後期	15	1		○		○	○			
52	○		ビジュアルデザイン	デザインアプリFigmaを使用。商業デザインの制作を通して、レイアウト、表現技法を学ぶ。	2後期	15	1		○		○	○			
53	○		世界情勢	自国の習慣や考えだけにとらわれることなく、他国の習慣・文化に共感し、異文化間での協力関係を構築する素地を身につける	2後期	15	1		○		○	○			
合計				53 科目		2349 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・卒業基準検定もしくは、認定試験の取得 ・授業への出席80%以上 ・履修するすべての科目において、S・A・B・Cいずれかの成績評価を得ること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：学科・専攻で定められたカリキュラムについて履修すること。		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。